

# 調査季報総目次

調査季報は企画調整室調整課で編集を担当してきましたが、これから同室都市科学研究室で編集することになりました。ちょうど今度で30号をむかえますので、29号までの総目録を載せてみました。

## 第 1 号 <1963年11月>

### 特集 横浜市の未来像

市政と科学的調査	辻 清明
横浜市の未来像	
一市民の立場を中心として	富田富士雄
都市計画技術よりみた横浜市の将来	
について	緒形 昭義
横浜市再開発についての基本的問題	高見玄一郎
国際港都「横浜」に寄せる	白根 雄偉
横浜市の工業化政策と都市問題	
一その解決のための方法論	鳴海 正泰

行政研究	
地方公営企業法改正に伴う問題点	
一公共下水道事業を中心として	調査室
横浜市における公害の実態とその対策	調査室
資料紹介	
地域における募金等の実態調査	
一町内会を通じる税外負担の一面	調査室
大ロンドンの地方行政に関する	
王室委員会<1957~60>の報哲書	調査室

## 第 2 号 <1964年 2 月>

### 特集 横浜市の行政水準

都市行政の内容と地方自治	井手 文雄
社会福祉行政の比較分析	芹沢 勇
横浜市の教育行政	中村宇一郎
日本の道路と横浜市の水準	中村 美保
横浜市の清掃事業	藤巻 利吉
横浜市の衛生行政	
横浜市民と保健所	小杉 国雄
横浜市民の生活環境をめぐる諸問題	助川 信彦

行政研究	
横浜市農業の一断面	大場 正典
広域横浜市の問題点と1提案	成田 宏
資料紹介	
“市長への手紙”から	能登 久喜
文献紹介	
ロスアンゼルス市都市計画委員会の組織等	白井 昭三

## 第 3 号 <1964年 5 月>

### 特集 子供を大切にす市政

転型期の自治体財政	遠藤 湘吉
現代の青少年問題とその背景	宮島 肇
横浜の勤労青少年	深沢 淑子
社会教育からみた青少年活動	井上 庄平
転換期の青少年問題協議会と市行政	植村 慶富
児童福祉行政の現実と対策	牧野 博庸

市民生活白書を批評する	
初心忘るべからず	三浦 恵司
片手落ちな工業化の評価	小島 康雄
とぼしい具体的施策	武田 英治
強調されてよい戦災・接収の痛手	和田 瑞穂
ほりさげてほしい地域組織の実態	元木 光男

自治体白書の先駆的役割を……………	清水 嘉治
<b>行政研究</b>	
昭和39年度予算の基本的性格……………	鳴海 正泰
横浜市における人事労務管理……………	二見 勝次

自動車交通からみた横浜とその対策……………	後藤 清
<b>新書紹介</b>	
新都市の計画<フック>……………	調査室

第 4 号 <1964年 8 月>

**特集** だれでも住みたくなる都市づくり

都市づくりの基本はなにか……………	浅田 孝
横浜における都市づくりの考え方……………	関 音三
横浜市の都市づくりに提案する……………	竹島卯三郎
区画整理から都市づくりへ……………	青沼 昭治
宅地開発の現状と問題点……………	白居 昭三
都市交通政策はいかにあるべきか……………	村岡健一郎
<b>行政研究</b>	
自動車の集中管理とその実績……………	菅原 幸蔵

戸籍窓口と市民サービス……………	天野 美弘
米国主要都市下水道施設について……………	池田 一郎
<b>資料紹介</b>	
根岸・本牧地域の公害対策についての 提言……………	野口雄一郎・山本 幹夫 清水 嘉治・桜井 毅
ミカエルリーズ・プレリーショアー	
再開発事業最終報告<1962年 4 月>……………	長野 尚友

第 5 号 <1964年11月>

**特集** 海外からみて横浜を考ふる

世界の都市 日本都市……………	柴田 徳衛
欧州よりみた横浜……………	岩本 正夫
近代都市の条件……………	和田 瑞男
欧米の港をみて横浜港の将来を思う……………	高見玄一郎
欧米の港湾をみて……………	土橋 宣夫
米国主要都市の土木施設について……………	水沢 勲

欧米の清掃事業に学ぶ……………	小泉富太郎
欧州の都市開発をみる……………	長野 尚友
<b>行政研究</b>	
横浜市の財政<その現状と対策>……………	清水 恵蔵
<b>資料紹介</b>	
横浜市における移動人口の実態……………	斎藤 正雄

第 6 号 <1965年 2 月>

**特集** 地方行政の改革と近代化

行政改革の方向……………	成田 頼明
行政事務管理の近代化と能率化……………	入江 昭明
行政機構改革への提案……………	守屋 太郎
窓口事務の実態と改革への提案……………	野田 勉
機械化と文書管理の新しい提案……………	白木 昭男
研修制度のあり方について……………	高橋 尚平
事業執行はなぜおくれるか……………	小玉 重光
お役所仕事を批判する	
<市長の手紙より>……………	調査室

<b>行政研究</b>	
根岸・本牧工業地区における火力発電 所立地にともなう公害問題の経過……………	助川 信彦 猿田 勝美
<b>資料紹介</b>	
「子供を大切にす市政に提案する」 応募市政論文・優秀作品……………	川崎万博他
<b>新書紹介</b>	
都市問題講座<全 6 巻>……………	調査室

清  
室  
  
美弘  
一郎  
  
幹夫  
毅  
  
尚友  
  
太郎  
尚友  
  
恵蔵  
  
正雄  
  
信彦  
勝美  
  
博他  
  
室

第 7 号 <1965年 5 月>

特集 宅地開発の現状と対策

宅地開発行政の基本的事項について……………	内藤 亮一	白居 昭三
戦後横浜の宅地開発の経過と現状……………	高瀬 定雄	田中 祥夫
	柴田 博	都市計画の能力を得るために……………
宅地造成関係法の適用とその方向……………	伊藤 功雄	高井 芳
	長久保美昌	<b>行政研究</b>
横浜における公的家賃住宅と宅地開発……………	横塚 願	横浜市の人口増加と給源地域の類型……………
土地問題の所在と都市計画の方向……………	桑沢世竜一	田添 京二
宅地造成事業における企業性……………	水野 和昌	篠筈 憲爾
ベッドタウン化の諸問題……………	武田 英治	<b>新書紹介</b>
諸外国における宅地開発の手法……………	長野 尚友	都市問題講座……………
		調査室
		The Future of London……………
		調査室

第 8 号 <1965年 8 月>

特集 戦後20年 一市行政の再検討

戦後20年と大都市行政……………	鳴海 正泰	<b>行政研究</b>
社会教育の根本問題……………	清水 嘉治	横浜市の人口増加と給源地域の類型
中小企業対策の再検討……………	碓井 貢	<その2>……………
青少年対策の新しい方向……………	田中 正司	田添 京二
都市農業の存立と農政の質的転換……………	石渡 貞雄	篠筈 憲爾
補助金行政はどうあるべきか……………	小玉 重光	<b>新書紹介</b>
社会福祉行政の現状と問題点……………	松本久雅之介	都市づくり……………
戦後横浜市政年表……………	調査室	都市問題講座……………
		調査室

第 9 号 <1965年11月>

特集 「横浜の都市づくり」に提案する

「都市づくり」はだれのために……………	高井 芳	国庫補助事業における論理と超過負担
横浜都市計画のためのノート……………	石川 允	の実態……………
都市政策への提言・防御から建設へ……………	白根 雄偉	梅崎 初夫
明日の横浜市づくりのために……………	早瀬 利雄	社会教育の根本問題について……………
横浜の都市づくり試論……………	中村 實	田代 元弥
「横浜の都市づくり」を読んで……………	小此木彦三郎	田代教授の批判にこたえる……………
都市づくりへの市民の発言……………	調査室	清水 嘉治
<b>行政研究</b>		<b>資料紹介</b>
海外の交通事情について……………	村岡健一郎	大都市財政に即応する税制の確立につ
ヨーロッパ、アメリカの青少年問題印		いて……………
象記……………	植村 慶富	調査室
		<b>新書紹介</b>
		現代の地方政治……………
		調査室
		大都市の解剖……………
		調査室

第 10 号 <1966年 2月>

特集 区役所問題

大都市の自治と区制……………高木 鉦作	区民相談室のその後……………能登 久禱
コミュニケーション回路の改革……………海老原 毅	横浜市における区制の歴史
人事の停滞を改めよ……………山本 清衆	<付・横浜区政年表>……………佐藤 雅亮
1パーセント区政からの脱出……………中田 太郎	募金集めと市民課……………小玉 重光
区長の総合調整機能を強化せよ……………諏訪 部周	横浜における住宅金融公庫一般個人融
出先機関の統合と区長権限の拡大……………添田清二郎	資住宅の実態調査とその分析……………内藤 亮一
建築的にみた区総合庁舎と窓口一本化……………河合 正一	<b>新書紹介</b>
<b>行政研究</b>	自治体改革の理論的展望……………調査室

第 11号 <1966年 5月>

特集 横浜文化論 ー新しい文化の創造は可能か

「横浜文化論」的前書……………鳴海 正泰	「支店分化」からの脱皮……………山口 辰男
横浜文化論への三つのアプローチ……………川添 登	失なわれたものを求めて……………渡部 允
幻影からの脱却	よそ者のみた横浜文化論……………辻村 明
<かつて横浜に文化はなかった>……………白土 秀次	壊すことと創ること……………山田 今次
横浜におけるプロレタリア文化の系譜	トータルビジョン!!……………緒形 昭義
<文化創造のにない手たち>……………斎藤 秀夫	ヨコハマとはなんだ……………斎藤 栄
まつりの衰退	都市文化の母体……………野村 良政
<横浜の民俗芸能の現状>……………川口 謙二	<b>行政研究</b>
されば横浜の日々よ	施設からみた文化度……………高井 労
<概観的横浜文化論>……………河西 稔	横浜における住宅金融公庫一般個人融
アマチュア演劇と横浜文化	資住宅の実態調査とその分析……………内藤 亮一
<市民による文化運動>……………加藤 衛	<b>新書紹介</b>
ハマは植民地である……………山田 長夫	マン・イン・メトロポリス……………調査室
シウマイ文化と洋菓子文化……………田村 明	都市問題講座第7巻・都市計画……………調査室
分にすぎた背伸びを……………吉田考古麿	

第 12号 <1966年 8月>

特集 首都圏と横浜

首都圏における横浜の位置……………内井 昭藏	スラム清掃
首都圏における人口増加のパターンと	ーアメリカのスラム2著とドヤ街考……………芹沢 勇
その地域的特性……………岸本 実	海外の大気汚染対策……………猿田 勝美
首都圏と横浜の都市計画……………成田 宏	鳴海 正泰
東京周辺地域の問題と問題意識……………渡辺 精一	<b>新書紹介</b>
首都圏に関する統計資料……………高井 労編	日本の地域政治の構造……………調査室
<b>行政研究</b>	日本列島の将来像……………調査室
ストックホルムの都市開発について……………鈴木 和夫	

特集 新しい横浜の記録

都市づくりにおける戦略・戦術……………飛鳥田一雄	月一度の市民意識……………川村 仁也
ビッグビジネスの論理と都市問題……………宮崎 義一	“子供を大切にすること”……………宮島 肇
地域組織にみる新しい市民意識……………横山 桂次	<b>行政研究</b>
横浜市政の回顧と展望……………井手 文雄	根岸湾臨海工業地帯の造成と公害行政……………中村 紀一
横浜の都市づくりを考える……………早瀬 利雄	横浜市における公共投資の財源問題……………梅崎 初夫
革新市政とはなにか……………大崎平八郎	郊外新市民の二つの型……………小玉 重光
市政における政治の役割……………今井 清一	児童公園の増設と問題点……………調査室
市民こそ総合的都市計画の推進者……………緒形 昭義	横浜市における住宅金融公庫一般個人
より着実な前進を……………清水 嘉治	融資住宅の実態調査とその分析……………内藤 亮一
市民意識の展開と行政のリーダーシップ……………河村十寸徳	<b>新書紹介</b>
市政聴診……………宍戸 昌夫	都市化時代の日本経済……………調査室

第 14 号 <1967年 6月>

特集 大都市圏の問題

ニューヨークの大都市圏計画……………西尾 勝	横浜の変貌と新住市民の自治意識……………横山 桂次
大都市交通の根本問題……………角木 良平	横浜市をめぐる人口移動の地域的構造……………田添 京二
都市政策の反省と提案……………坂本 二郎	篠筈 憲爾
都市化時代の衛星都市……………伊藤 善市	現行土地関係法における宅地の技術的
首都圏に関する統計資料……………調査室	要件……………内藤 亮一
<b>行政研究</b>	<b>新書紹介</b>
横浜市政と市民の期待……………田代 昌史	危機に立つ地方自治……………調査室

第 15 号 <1967年 9月>

特集 行政の再点検と提案

港湾能機の拡大と行政の新方向……………山添 鉄一	コメント・青少年行政に望む……………高橋 四郎
コメント・横浜港の将来と港湾行政……………北見 俊郎	<b>行政研究</b>
都市化の進展と下水道行政……………池田 一郎	横浜市をめぐる人口移動の地域的構造……………田添 京二
コメント・計画の統一と施設の共同化……………緒方 昭義	篠筈 憲爾
清掃行政の実態と提案……………小泉富太郎	横浜の変貌と新住市民の自治意識……………横山 桂次
コメント・清掃行政に対する意見と希望……………森本 三男	横浜市の公害対策について……………清水 嘉治
貿易行政の新展開……………山田 勇	<b>新書紹介</b>
コメント・横浜市貿易の問題点……………長田 五郎	現代都市論……………調査室
新段階を迎えた青少年行政……………植村 慶富	

特集 続 行政の再点検と提案

公園行政のあゆみと今後の課題……………	川口 弘	コメント・教育行政の硬直化に提言する……………	吉田 光
コメント・公園行政への期待と提案……………	田村 明	<b>行政研究</b>	
消費者行政の現状と将来……………	加藤 義一	横浜の保育所問題……………	牧野 瑠
コメント・消費者行政に新しいアイデア			今井 洸夫
アを……………	相原 光	土地利用計画における宅地の技術的要件……………	内藤 亮一
転換期の道路行政……………	朝倉 次郎	<b>行政資料</b>	
コメント・道路行政のあい路……………	梶 幸雄	横浜市の工業化進展にともなう公害災	
市民の健康と衛生行政……………	時任 直人	害の諸問題について<根岸・本牧工業	
コメント・衛生行政はこれでよいか……………	矢戸 昌夫	地帯を中心として>……………	横浜都市科学研究グループ
大都市問題のなかの農業行政……………	徳植 末樹	<b>新書紹介</b>	
コメント・都市農業のめざすもの……………	服部 一馬	道路の経済学……………	調査室
教育行政のあり方の再検討……………	井上 高三		

特集 公害対策——横浜方式

横浜の現況とその新しい展開……………	助川 信彦	<b>行政研究</b>	
大気汚染の現状……………	猿田 勝美	横浜の都心部における交通規制試論……………	野村 良政
大気汚染の気象学……………	箕輪 年雄	居住環境の質の評価等における宅地の	
大気汚染の植物に与える影響……………	前野 道雄	技術的要件……………	内藤 亮一
大気汚染と文化財……………	江本 義理	<b>新書紹介</b>	
大気汚染の人体に及ぼす影響……………	渡部 光雄	社会資本論……………	清水 嘉治
臨海工業地帯の大気汚染対策……………	猿田 勝美		

特集 200 万都市

首都圏への人口集中とドーナツ現象……………	梶 幸雄	横浜市における副都心の開発……………	野村 良政
横浜市の人口問題……………	富田富士雄	地方財政の危機と財源配分問題……………	梅崎 初夫
横浜市の人口推移とそのパターン……………	森田 文行	大都市財政の実態……………	指定都市事務局
人口急増にともなう市民の変化……………	山口 辰男	新しい統計表・センサストラクト……………	斎藤 正雄
横浜の成長過程と都市問題……………	岩崎 重男	<b>新書紹介</b>	
<b>行政研究</b>		日本都市論……………	企画調整室
欧米における港都労働者の雇用形態……………	高見玄一郎		

第 19 号 <1968年10月>

特集 郊外部開発の諸問題

郊外宅地開発の基本方向……………田村 明	都市計画よりみた公有水面の埋立事業……………野村 良政
港北ニュータウンの基礎理念と実際……………鳥井 陸八	多摩田園都市問題協議会とその成果に
大都市近郊農業の保全と農業経営の方向……………神戸 正	ついて……………斎藤 栄
開発と治水問題……………佐藤 昌之	<b>行政資料</b>
人口の急増と義務教育施設……………寺門 敏雄	横浜市宅地開発要綱……………横 浜 市
開発と埋蔵文化財……………岡本 勇	東海道新貨物線計画に関する提言……………清水 嘉治
<b>行政研究</b>	……………広岡 治哉
市民相談からみた宅地造成の問題点……………能登 久禧	<b>新書紹介</b>
……………広瀬 良一	新しい都市理論……………ライスマン, 著星野郁美訳

第 20 号 <1968年12月>

特集 転換期の福祉行政

新しい社会福祉行政……………小山 路男	新しい首都圏整備の方向……………雨宮 利次
乳幼児保健対策の新しい方向……………田村 元	<b>行政資料</b>
老人問題とその対策……………石渡 金吾	大都市財政の実態に既応する財源の拡
婦人労働と児童問題……………伊東 優	充について……………六大大市市長
精神薄弱福祉の現状と問題点……………朝倉 陸夫	……………市議会議長
寿ドヤ街の福祉対策について……………谷川 弘	多摩ニュータウンについて……………東京問題調査会
……………田中 俊夫	昭和44年度予算編成方針……………横 浜 市
福祉事務所をめぐる諸問題……………松本久雅之介	<b>新書紹介</b>
<b>行政研究</b>	変動する大都市……………ゴットマン, ハーバー編
結合による新しい試み……………中村 賢二	……………飛鳥田一雄ほか訳

第 21 号 <1969年3月>

特集 市民の安全

都市計画からみた市民の安全対策……………村上 處直	都市化と犯罪……………早瀬 利雄
横浜市における地域防災計画の現状と	<b>行政資料</b>
将来……………高橋 孝二	市町村と国家……………ロジエ・オーバン編
放射能汚染と市民の安全……………猿田 勝美	<b>新書紹介</b>
横浜市の交通事故とその対策……………川久保 正	危機に立つ都市交通……………日本都市交労連
都市化と市民の健康……………六郷 政寛	……………長期政策委員会編

第 22 号 <1969年 8 月>

特集 都市と緑

これからの都市計画と緑……………河合 正一	行政研究
首都圏広域緑地計画の意義……………田辺 昇学	横浜市における幹線道路の整備促進に
横浜市における公園・緑地と今後の課題……………洲上 和彦	ついて……………野村 良政
公園行政の現状と問題点……………山田 栄雄	英国における地域開発政策の性格……………清水 嘉治
横浜の緑化対策……………山口 忠正	新書紹介
近郊農地の計画的保全……………小沢 恵一	都市の時代……………榎並公雄著
都市再開発とオープン・スペース……………内藤 惇之	

第 23 号 <1969年11月>

特集 都市化と老人問題

老人問題の現状……………磯村 光男	行政資料
都市化と老令人口……………黒田 俊夫	横浜市の都市交通問題にかんする提言……………
横浜市の老人対策……………村田 一夫	……………大都市交通問題研究会
老人の就職問題……………平井 省三	昭和45年度予算編成方針……………横浜市
老人の新しいレクリエーション……………西脇 要	都市問題関係誌目録……………澤西 美博
老人ホームの課題……………河野 亮永	新書紹介
寝たきり老人の実態……………中村 八朗	環境開発論……………浅田 孝著

第 24 号 <1970年 1 月>

特集 基地と市民運動

都市と基地……………飛鳥田一雄	根岸競馬場返還と市民運動……………深山 泰治
……………潮見 俊隆	行政研究
横浜の基地撤廃運動……………渡部 允	欧州各都市の開発と再開発について……………野村 良政
電波障害とたたかう農民たち……………中尾 安治	地下鉄建設にともなう問題点……………村岡健一郎
瀬谷基地における法律的問題点と鑑定	都市化と老人病……………落合 博
書について……………山本 博	新書紹介
二つの基地返還問題……………門倉 政秋	アメリカ大都市の死と生……………J・ジェコブス著
根岸競馬場の返還運動……………松永 靖彦	……………黒川紀章訳

第 25 号 <1970年 3 月>

特集 京浜工業地帯

日本の工業立地……………山本 正雄	京浜工業地帯に関するアンケート……………
首都圏の土地利用……………石川 允	行政資料
成立期の京浜工業地帯……………服部 一馬	既設工業地域の公害対策に関する提言……………
京浜工業地帯の現状と問題点……………清水 嘉治	……………横浜市既設工業地域公害対策調査会
労働者の立場から見た京浜工業地帯……………斎藤 秀夫	新書紹介
京浜工業地帯の将来……………前田 清	地方自治の理論と構造……………星野光男著



特集 余暇とその環境

余暇の今日的意義	松下 圭一	行政研究
遊びの構造	田村 明	パーソントリップ調査からみたレジャー
労働者と余暇問題	板東 慧	レクリエーションの構造
自然遊歩道の計画と意味	鈴木 忠美	後藤 清
都市の自然とレクリエーションスペース	田畑 貞寿	長谷川尚男
斜緑面地論	仙田 満	小江 淑
市民とレクリエーション	安永 和夫	新書紹介
		個性あるレジャー<藤竹 暁著>
		根本 和夫

良政  
嘉治  
公雄著

特集 都市廃棄物

環境破壊と生命の原理	宮腰 繁樹	幹線道路の自動車公害防止についての 試論
廃棄物処理処分の諸問題	宮之原 隆	野村 良政
水質汚濁と環境基準	佐藤 昌之	行政資料
港湾汚染と沈廃船	江口 昭悟	昭和44年度地盤沈下調査結果の概況な らびに45年度調査事業計画について
公害問題ととしての廃棄物	猿田 勝美	横浜市
エネルギーと廃棄物	平野 豊策	日本鋼管扇島移転の公害防止
		田村 明
行政研究		新書紹介
横浜市都市廃棄物研究会の経過	三木 馨	苦海浄土<石牟礼道子著>
		池田 武文

研究会  
市  
美博  
孝著  
泰治

特集 6 大事業の経過と今後の方向

6 大事業の基本理念	宮腰 繁樹	④ 都心部のなかの緑の軸線	三木 馨
地下鉄建設の計画と実際	安藤 栄	⑤ 中小工場移転跡の土地利用計画	猪狩 剣正
港北ニュータウン		金地沢地先埋立事業	村上 武
① ニュータウンの開発	林 太郎	行政研究	
② 農専地区の形成	井上 三男	東西ヨーロッパの公害視察の印象	助川 信彦
高速道路のネットワーク	池沢 利明	行政資料	
ベイブリッジ計画	西脇 巖	日本鋼管株式会社京浜製鉄所に関する 公害防止協定の締結について	神奈川県 横浜市 川崎市 日本鋼管株式会社
都心部再開発			
① 三菱重工移転と跡地の利用	入江 昭明		
② 横浜駅西口の再開発	寺内 孝		
③ 都心部の中小工場の移転と協業化	野地 博		

良政  
一郎  
博  
ス著  
章記  
会  
男著

特集 新市民と自治

「横浜と私」を読んで……………大堀 末雄・渡辺 俊輔	左近山団地におけるコミュニティづくり……………筒井 安忠
小幡 勝也・蒔田 啓子	団地における自治会活動の実態……………宮本 功
高島 みち・荒井由紀子	新市民自治組織にみられる行政への新
小原恵美子・生井 俊重	しい対応……………佐藤 俊一
住人と市民……………外林 大作	行政研究
地域社会における諸問題と婦人の役割……………原 芳男	新市民への行政サービス……………田子 幹夫
佐枝 三郎	緑区新市民の市政参加への道……………平井 義男
おかめ八目・横浜市民の皆さんに……………浪江 虔	

あとがき

この「調査季報」も、こんどで第30号を数えることになりました。いそがしい日常の仕事のうえに、このような本を続けて発行していくということは、大変エネルギーのいることだと思います。これまでに育ててこられた関係者のご努力に、深く敬意を表します。

これからは、都市科学研究室で編集をひきついでいくわけですが、従来にもまして、職員の方々はもちろん、市民や先生方のご協力をお願いいたします。

1963年11月に誕生した第1号のあとがきには、次のように書かれています。「この季報は、市政をよりよくするために、市職員と市民とで討議し交流しあう場です。皆さんが意見、希望を寄せられるとともに、レポート、論文の寄稿を期待しています」。ここにうたわれた「季報」の使命は、今後変わるものではありません。私たちは、この趣旨をさらに充実・発展させたものに具体化していきたいと思ひます。

そのための運び方として、特集テーマを中心にし、ひろく関心のある人たちに集っていただき、研究会とか談話会のようなものを重ねていきながら、「季報」を共同製作していくといったことが

できれば、とも考えています。とくに職員の場合は、テーマごとにインター・セクションの“局際的”な研究グループが群生し、「季報」がそれらの人たちに支えられていくことを期待したいと思います。

その呼び水といった意味もふくめて、この号では、水にはずぶの素人であるわれわれ都市科学研究室員も執筆者に加わりました。今回はいろいろの事情から、執筆者全員が集って水資源問題を話し合い、考え合う機会がありませんでした。それにわれわれの不勉強も重なって、その部分の内容は、ほんの表面をひとあたりふれたにとどまりました。ご批判を待ちます。

なお、水の問題では水質がきわめて重要ですが、これは別の機会にゆずりました。また<資料>と一部グラフの作製には、都市科学研究室勤務潤間嘉寿美さんの力をかりました。

最後に「季報」の編集委員は、都市科学研究室の松本得三、春田圀典、岡村駿および企画調整室の皆川達也、水島敏彦、大熊直人の6名です。今後「季報」に対する意見、希望、批判などがありましたら上記の者にご連絡ください。

<都市科学研究室>

調査季報

30

1971年6月30日

編集・発行——横浜市企画調整室都市科学研究室

横浜市中区港町1-1

印刷——有限会社 宮村印刷所

横浜市南区永楽町2-22